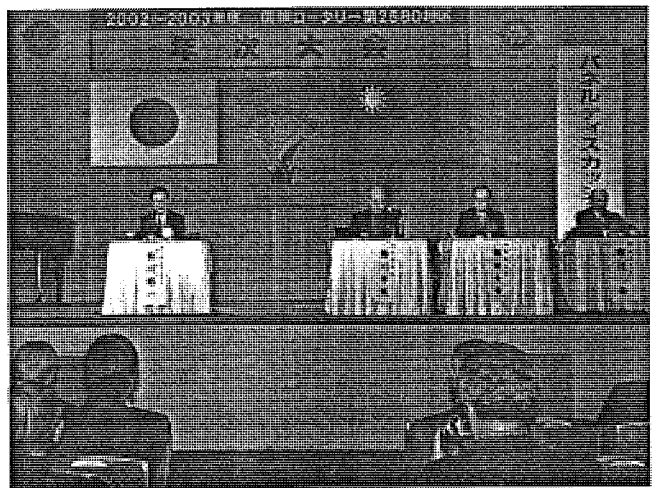
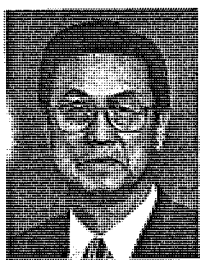


パネルディスカッション

「職業倫理について」



コーディネーター・ガバナー 前川 昭一



先程も申しましたように2時間の長丁場ですので、どうぞひとつ肩の力を抜きまして気楽にひとつ本音で話したいと思っています。先程も申し上げましたように、今年度のRIの会長というのは本当に素晴らしい人であります。今迄のガバナーの悪口を言うつもりはありませんけれども、きわめて鮮烈な、新鮮な印象すらもつ人でありまして、やっぱり、アジアから出た人は素晴らしいなと思っている所であります。そこで彼の「慈愛の種を播きましょう」というテーマですけれども、私が感心するのは彼はその順序をきめたことですね。一番最初がクラブであると。ロータリークラブの活動の中心はクラブなんだから、クラブが大事なんだ。その次は職場にまいてくれと言っている訳であります。つまり、ロータリーの綱領、これは目的と言っているんですけど、これははっきりと、我々その職業人としては、その中心は職業奉仕だと。職業奉仕とはなにかと云ったら、職業倫理を高めることだとかうっている訳であります。このふたつをしっかりとさえないで、いたずらに目を外に向けて地域だ、世界だと、悪いことないんですけども、一番大事なその1番目2番目のプライオリティをしっかりとさえ

なくてはならないと思います。そんなことで今日は、2時間ちょっと、お疲れだと思うんですけども、職業奉仕について、いっぺん考えてみようと思っておるところであります。今日お招き致したのは3人のパネリストでございます、私の方から申しまして、まず藤川さん、これは皆さん今更ご紹介する事もないと思うんですが、藤川享胤さんであります。その次はNHK解説委員、同時に現在は関西学院大学教授の藤田太真さんであります。で3番目は我々の地区のロータリアン、池袋ロータリークラブの渡辺進さんこの3人さんです。で進め方は、だいたい私が、その基本的なこの趣旨をお話し致しまして、それが終りましてから、藤川さんに15分間、お話を伺います。タイトルは「ロータリーでいう職業奉仕」、たしかに、ロータリーでいう職業奉仕が良くわかってないと、次に進めませんので、その総論的な事を話を伺います。その次は藤田さんに「企業と倫理」、ご承知のとおり、藤田さんはいろんなNHKの経済番組やっておられますし、パネラーとしてやっておられますし、その企業の倫理性について、いったいどういう事がおきたのか、というような事の面白い話を聞いていきたい。それから最後は、渡辺さんに私の経営哲学、つまり、いろんな事を言ったり、情報を集めたりするのは良いんですけども、実際やったのかと、それが一番大事でありまして、渡辺さんのところは、いろんな事をやっておられる訳でありま



して、その実例を伺いたい。だいたいこういう方向で進めて行きたいと思っております。だいたい、15分間ずつお話を頂きまして、後、もう5分間ずつ補足説明をして頂きまして、最後に20分間で質疑応答ということにして、2時間で終りたいと考えております。ひとつ今日はあんまり、難しくお考えにならないで、率直に何でも、このパネリストの方々に聞いて頂ければありがたいと、そういうふうに思っております。それではとりあえず藤川さんをご紹介申し上げたいと思います。藤川享胤さんについては、これはもう非常にロータリアンとして有名な方ですし、実は、私どもアナハイムでガバナーエレクトの時に、10日間缶詰で勉強させられるんですけども、その缶詰の勉強の先生が藤川さんでありまして、どうも頭の上がない人で、この方は曹洞宗のお坊さんなんです。禅宗、禅三派ありますけれども臨済宗、曹洞宗、黄檗宗、ま、黄檗宗と臨済宗は一緒ですけども、要するに禅の中の曹洞宗、永平寺道玄禅師のまあ、お弟子さんになるのでしょうか。この方はですね、単にそういうその宗教者といいますか禅の専門家というだけじゃなくて、サンフランシスコにありますアメリカの、サンフランシスコの桑港寺主任開教師、つまりサンフランシスコに5年間おられまして非常にその禅の普及に務められたと同時に、非常に広い国際的視野を持っております。従いましてなんかこう頭を丸坊主にしている人だから、偉い固苦

しい事を言うのかなと思うと、どうしてどうして大変面白い方です。非常に視野も広い方ですから、是非ひとつ、お話伺って頂きたいと思えます。同時にまあ、鶴岡ロータリークラブへお入りになりまして、その後さっき申し上げましたように、数々のロータリークラブの要職、役職を持っておられまして、ロータリーの発展に大変尽くしておられる方でもございます。それでは藤川享胤さんからひとつお願い致します。どうぞ宜しくお願い致します。

パネリスト R1第2800地区バスターガバナー **藤川 享胤**

只今、前川ガバナーより過分なるご紹介を頂きました、2800地区鶴岡ロータリークラブ藤川でございます。只今、ご紹介にありましたように今年1月、私は国際協議会の研修リーダーのお役を頂きまして、前川ガバナー初めと致します、35名の日本の大変優れたガバナーエレクトの皆様と共に約10日間、アナハイムで研修をさせて頂きました。そのご縁を頂いたのでございましょう、この度、前川ガバナーより、当地区の地区大会のパネディスカッションのパネリストを務めるようご依頼を頂戴致しましたが、私に与えられたテーマが「ロータリーという職業奉仕とは」という事を知って、驚く以上に、しまったと

川き受けなきゃ良かったと、実は後悔致しました。なぜなら当地区には職業奉仕を語らせば、この日本でこの方の右に出る人はいないといわれている、佐藤千壽バスターガバナーがおられると気付いたからでございます。でも時遅しでございます。他の地区ならいざしらず、この地区でどんな顔して、職業奉仕を語ろうか、実はほとんど困ったのでありますが、敬愛する前川ガバナー、特に本年度日本のガバナー会の議長を務め頂いております、特段のご奉仕を頂いてるガバナーの、少しでもお役にたつ事が研修リーダーとして私の任と思ひ直し、重い心を励して、この席につかさせて頂きました。実は今年の3月の初め、私はロータリー財団の研修会に出席する為約1週間シカゴに行っておりました。そしてその機にシカゴ空港で7年振りで、私の古くからの友人であるタイのエスさん夫妻にまさに偶然に、シカゴ空港でお会いしたのであります。久しぶりの本当に思いがけない再会に肩を抱き合って喜び合いました。お二人は他の4組の親しい夫妻と共に二週間のアメリカ旅行を終え、帰国の途中でありました。エスさんは彼の親しい友人達、私が日本の仏教のお坊さんであり、自分とは大変親しい古くからの友人である、と紹介してくださいました。すると彼らは私の向かって合掌し、親しい笑を投げかけてくださいました。私もそれにお答えするかの様に合掌し、頭を下げながら彼らに近ずき、殿方から1人1人握手をしながら、ご挨拶をしまいいりました。4人のご主人達と握手が終り、奥様達と握手をしようと近づいた時、彼女らは一歩退き、私との握手を拒んだのでございます。なぜ、どうして、という思いを込めてエスさんを振り返った私は、目でその理由を尋ねました。彼はにこっと笑ってこう答えたのです。ミスター藤川、あなたも良く知っての通り、私達の国は熱心な仏教徒の国であります。お坊様は清く、尊い存在そのものであります。だからこそ毎朝どの家庭でも、一番の物をお坊様に供養させて頂いているのであります。それに対して、おはずかしながら、女性はまた不浄だという観念がいきずいております。不浄な女性が尊いあなた様に直にさわって、万が一汚されてはいけない、彼女達はそう思ってあなたとの握手を躊躇したのです、とこう言われたのであります。私は驚きました。今の時代に、こんな信じられない性差別が現存する事にも驚きましたが、それ以上にタイではお坊さんに対して、これ程までの信頼感、尊敬度があるという事を、

目の当りに知って驚いたのであります。シカゴから成田迄の13時間のフライトの中、私はずっと次の事を考え続けておりました。さすればこの日本に、もちろん私も含んでどれだけ多くのお坊さんが、人々からこれだけの信頼と尊敬を集めているだろうか。私のホームクラブの例会は毎週火曜日に行なわれますが、その日お葬式や法事が重なっていると、私は背広に着替える時間がありませんので、僧服を着たまま、例会に出席を致します。すると仲間の何人かが藤川さん今日は職業奉仕でしたか、それじゃあ一杯儲かりましたね。小さなウイंकなどをしてくれるのであります。勿論、半分冗談であるということは重重承知しておりますが、その言葉を聞くたびに、私はロータリーで言う職業奉仕を、私は十分にまだまだしていないんだなあ、自分自身に問い掛けるのであります。坊さんとして、霞を食べて生きていく訳にはいかないのですから、それなりの収入を得るということをロータリーは否定しないという事、それは皆様ご承知の通りでございます。しかしながら、僧服姿の私を見て、収入を得んが為の儀式に使う7つ道具のひとつを身に付けているとしか、世間からもし認知をされていないとするならば、職業分類を宗教として、ロータリアンとしての私の職業奉仕は本物ではない、と言わざるをえないのであります。私は寺に生まれ、寺に育ちました。そして男の子が一人という事もあって、父の後を継いで、お坊さんになることが言わば宿命づけられておりましたが、坊さんになるのが嫌で嫌でしょうがありませんでした。この様に頭を剃るのが嫌だとか、僧服姿を同級生の女の子に見られるのが恥ずかしいだとか、子供ながらの稚拙な理由はいっぱいございましたが、何よりも、意味の分らぬお経を読んで御布施をもらう事に関し、罪悪感にも似た強い嫌悪感をおぼえました。ところがおひとりの敬愛するご老師様との出会いが、私が坊さんになる決心をさせて頂いたのであります。「そうかお経だけ読む坊さんがそんなに嫌いか、だったらお経を説ける坊さんになろうと、何故なろうとしてくれない、お釈迦様の教えを、あなたの言葉で語り、あなたの行いで人様に示してあげられる、そんなお坊さんに何故なろうとしてくれない。」他人も伝えず自分を伝じて、今はなき心からお慕い申しあげたこの方様の言葉が、私をして、宗教の道に歩ませて下さったのであります。だから今日迄、経を読む事に専一になることが、坊さんの職業奉仕ではないと思って

おりましたし、お経を説けてお経を実戦できて、初めてロータリーで言う職業奉仕をしていることになると思っ止めてまいりました。「あのお坊さんはロータリアンなのですか、どうりで他のお坊さんとはひとあじ違う」、そういう宗教家としての真の認知を社会から受けて初めて、ロータリーで言う僧侶としての職業奉仕になる、というふうな思っ止めてまいりました。だから少なくとも、陰口で坊主丸儲けだとか、今日中曾根先生がおっしゃった歴史観の無い、宗教観の無い、坊さんになるまいぞと、こう思っ止めてまいりました。私の敬愛する大先輩のロータリアンのお医者様がこんな風に言われました。「病気を治すには、3つの力が必要なんだ。1/3が病気を直したいという患者の強い意志力、1/3が自然治癒力、そして残りの1/3が医者技術ってところかな」、「ところが最近の医者には、この基本的な原則がわからないやつが多くなって困ったもんだ、病気を直してやっているのはこの俺なんだという傲慢さがなくなる限り、世間を騒がしている誤診と病気を仮に直せても、病人は直せない。お粗末な医者がこれからどんどん、どんどん増えていくんだらうな」、淋しそうな顔をなされました。今から26年前、昭和51年5月号のロータリーの友に、当時四国全県367地区現2670地区、三宅徳三郎ガバナーの「鏡の前のロータリアン」というこんな記事が掲載されました。1936年、イタリア国立連合病院のエリンコ・ジュボニー博士が、「鏡の前の外科医」という一種の思い出の記ともいべき名著を発行した。どこの病院でも、手術に入る前に消毒室がある。その消毒室の壁は大きな鏡が取り付けられている。医師は、手術室に入る前ここで手洗いをし、消毒をする。鏡の前に立った外科医は、敏速に正確に消毒しながら、鏡の中に写し出された自分の目に問いかけるのである。今から行なわんとする手術は、人道に反してないか、良心に悖らないか、己の全能力を発揮できるか確かめた後、静かに手術室に入る。手術が終了最後の縫合が行なわれると、元の消毒室に戻り、手術着と手袋を脱ぎ、マスクを外してから又、鏡の前に立つ。なぜ鏡の前に立つのであろうか。身嗜みをする為では勿論ない。この動作は長年に渡って習慣づけられ、教えられたものである。即ち外科医は今行ってきた、手術の批判を鏡の中の自分の目に見るのである。鏡の中の目から、手術は正しく行なわれたか、全力は発揮できたか、全て良心的に行なわれたかと反省するのである。エリンコ・

ジュボニーは次の言葉を書き加えている。「鏡は一瞬間に全てを表す。鏡に冷たく隠蔽することを知らない」と。私は外科医として鏡の前のそれでありたいと同様、鏡の前のロータリアンでありたいと念願してすでに30有余年、自分ひとりの理解として、誰にも話さず胸におさめてきたのだが、13年前地区ガバナーとなり、今回2度目のお務めをするにあたって、今度の巡礼も含めて、機会あるごとに同志に語ったのは、1人でも多くの鏡の前のロータリアンの出現を祈念してやまないからである。

国際ロータリー元会長アーサー・ラガーはこう言い切りました。「理想のない行動は、行動のない理想と同じく有害無益である」と。私達の理想の行動、理想の奉仕のお手本はさすればなんでありましょうか。私からあえて言うまでもなく、言行に照らして、「四つのテスト」を私達の心の糧にさせて頂く訳であります。「四つのテスト」を私達の奉仕のお手本として実践するかどうか、それは我々ロータリアンが、ひとりひとり鍵を握っている訳であります。「鏡の前のロータリアン」、これが我々ロータリアンに与えられた、職業奉仕をする時の原点だと、私は受け止めて頂いております。御清聴ありがとうございました。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

藤川さんありがとうございました。

職業奉仕の原点には倫理感がないといけない、ということをおっしゃっております。私も、全部のガバナー訪問で申し上げることは、その事でございます。今、「四つのテスト」の事をおっしゃいましたけれども、言行はこれに照らしてから、つまり、スィンク、セイ、ドウ、かんがえることも、しゃべる事も、行なう事も全部、この十字路に立ってどうするかを考えろという訳であります。と同時に、これは単なる標語であるとか御題目でなくて、非常に優れたテーマであります、このテーマをハーバテーマが会社を建て直す時に、実際にそれを使った結果、大儲けしたと、これが問題だと思うんですね。そういう意味で、私は今、四つのテストを申しましたけれども、我々はやっぱり倫理感というものは、職業になれば、これは本当に最終的には、バランスシートから言っても不利になるんじゃないかと思うわけであります。そこで商法に非常にお詳しい藤田さんをご紹介したいんですが、藤田さんはNHK解説委員でいらっしや

いますし、現在は関西学院大学の教授でもいらっしやまして、大学では日本経済論、メディア社会論、これをやっておられる訳であります。

昭和13年の虎年生まれでして、太いという字と寅という字をなんて読むのかなあと。「ニュースツデー」「経済マガジン」「クローズアップ現代」、現在は毎週土曜日に「暮らしと経済」これは大勢の経営陣、或いは経済政策の人達を集めた面白い番組であります。それでは藤田さんからひとつそのテーマとしましては、「企業と倫理」そういうお話を伺いたいと思います。宜しくお願いします。

パネリスト NHK解説委員 藤田 太寅



藤田です。前川さんにご紹介頂きまして、ちょっと変だなと思われた方いらっしゃるかもしれません。NHK解説委員を務める傍ら、もうひとつ関西学院大学の教授をしていると。あいつは両方から月給をもらっているのかと。NHKと関西学院大学にはそれぞれ兼職禁止規定というのがないのだろうか、これこそ職業倫理に悖るのではないかと思われた方がいらっしゃるかもしれませんので、念の為申し上げときますと、NHKの方はすでに定年退職をしております、月給はもらっておりません、それから健康保険も病院に行く時、NHK健保はもう使わない。病院行く時持って行くのは、私学共済の保険証を持って行く、そういう立場であります。ただそういう退職した解説委員の中に何人かNHK解説委員を名のるべしと、テレビやラジオに出ておくべしと、それからNHK解説委員の中に机も電話もあって、自分のマンナンバーを使うとデータベースに今もアクセスできると、そういう立場の人間が何人か居る、そのひとりであります。では、月給は関西学院大学、テレビやラジオに出演した時月給もらわないでただで出演してるのか、そうい

うご心配は頂かないかもしれませんが、念のため申し上げておきますと、私の家計もそれ程楽じゃありませんので、何がしか頂いております。皆さんにご出演頂く時と同様に、出演料というのを頂く事になっております。次のご疑問、何んぼもらっているのか？申し上げます。テレビ1回3万円、ラジオ1回2万5千円です。社会的水準から言って、これに不平がましい事を言うのは如何かと思いますが、NHKスペシャルなどやりますと、2ヶ月、3ヶ月前位からブレインストーミングなどやまして、いろいろこう時間をさき勉強して、それでこの水準というのはどうかと、私の意識の中では、なにがしか残るものがありまして、それでこういう立場になって始めてわかりました。日本放送協会ではなくてNHKというのは日本薄謝協会の略ではないかと、まあ、そんな立場であります、主に経済関係のニュース番組を担当している立場で、企業と倫理について感ずる事を綴る事によって、私の責を果させて頂きたいと思っております。やはりジャーナリストの端くれでありますので、最近の不祥事を材料にお話をさせて頂きたいと思っております。これについてはおそらく私の後にまわって頂きましたが、渡辺さんから経営論的なあの論理的に整理された、系統だったお話が頂けるのではないかと期待しておりますが、私の場合は、ジャーナリストチックな目で、いくつか見てみたいと思っております。企業倫理などと申しますが、最近おこっている不祥事は、その倫理、倫理というほどそんな高邁なものではなくて、もっとプリミティブなレベルの問題、そういう要素が支配しておこっている様な感想を持っています。誤解を恐れずに言いますと、何か愚かさ、浅はかさ、がいくつものスキヤンダルを生んでいるという印象をもっております。我々の記憶に新しい事件といえますと、牛肉を偽装した事件とか、これは国産牛肉と輸入牛肉をうまくすり替えた、うまくなんて言葉使っちゃいけませんね、ただ今の表現には不穏当な所がありました、お詫びして訂正致します。それから原子力発電所に於けるトラブル隠しとか、或いは不正入札或いは今も後をたない総会屋へ対する便宜供与、いくつもあげる事ができますが、そこには大なり小なり共通する愚かさ、浅はかさがあるのではないかと思います。しばらくは、牛肉偽装事件のことを振り返りまして最近これについて判決が出ておりますので、その判決で認定された事実等を中心にお話していきたいと思っております。7つ位愚かさ浅はか

さが指摘できるのではないかと思います。去年の秋頃から例のBSEいわゆる狂牛病の問題で、牛肉の売れ行きが全国的に落ちて行った。で牛肉を商いする産業の各所で、在庫が急増していったという事実はあります。で例えば雪印食品の場合には、役員から現場に、とにかく損しない様に行動する様に、やり方はそっちに任せる、損をしない様になっているんだな、といった様な声かけられる。つまり念を押された偽装である。損をしない様に損をしない様に、ところが結果はどうだったでしょうか。損をしないどころか雪印食品という会社はなくなってしまった、愚かな事、この上もないと思います。2番目に自分達がやっている事が、自分達がやっている行為のなんたるかがわかっていない愚かさ、であります。損をしないように、利益を確保するように、などと言った事ではなくて、実は農林水産省が実施した国産牛肉の買い取りの仕組を悪用して、税金を騙し取る行為をやっているという自覚がまったくその最中にはなかったという。つまり利益確保とか、損失を防ぐという行為と、それから税金を騙し取るという行為の間の違いがわからない、不正を不正と認識出来ない愚かさがあったのではないかと思います。ビジネスの大いなる墮落だと思えます。三つ目に、その背景には嘘をつき通せる、ごまかし通せる愚かさがあったのではないかと思います。今回雪印食品のこの牛肉偽装事件、これが一連の牛肉産業の偽装事件の発端になったんですが、内部告発の電話が発端でした。残念ながらNHKには来ませんで、朝日新聞の阪神支局に寄せられたということあります。

朝日新聞はこれは大変な事だと気が付いて、雪印側に取材に行けば簡単な事は簡単なんですが、簡単に隠蔽されてしまうという事を恐れまして、7人の支局員総出で、その間接取材といいますか、周辺取材に全力をあげました。直接取材を避けて、徹底的に周辺取材を行った。記事にする迄80日間かかったと朝日新聞の仲間には言っております。実に頭が下がるジャーナリズムの一番必要などころではないかと思います。それで80日間もかかりましたが、そして努力をして行くと、ポロツ、ポロツと事実が、隠せない事実が出てくる訳ですね。ある時大量の空のダンボールが作業所に届いた、変だなあと思ったとか、或いは定休日なのに雪印食品の社員が、大勢でやって来た事があった、何んて事が周辺取材でだんだん出てくる。おかしいと思ったと言うような事が次々出てくる隠しお

おせるものではない。ラベルの貼り変えが行われたと。そういう記録帳簿があそこの事務所にあるぞ、と言った証言も出てくるというような事で、だんだん、だんだんばれていって、大きなスクープ記事になっていく。ごまかし通せる物ではない。これが分からずに、ごまかしたつもりでいた。四つ目はこの少し、横道に逸れますが、このインターネットの時代ですから、この隠しおおせるものではないって事は、時代認識として知っていなければいけないと思います。以前であれば多少の不祥事があっても蓋をししたり、或いは押し潰したりという事が出来たかも知れませんが、インターネットを通じますと大量の情報を発信する事が出来る。一つの事が起ると私も、こういう目にあった、私もこういう目があったってんでもって、押え切れない位大量の情報が寄せられる時代です。そういう時代に隠しおおせる事を出来ないという事を、我々は企業防衛の為にも認識しておくべきではないかと思います。もちろんそのように寄せられる各種の情報というのは大掛りに大量になればなる程、真贋とりまぜて色々出て来ますので、やっぱりその所、見分ける必要がありますが、隠しおおせる時代ではないって事は、ネットの時代であるという認識を持てば、やっぱりその点でも愚かな事だという事を考えなければいけないと思います。五つ目、嘘がばれますと、元々の違法行為以上に嘘をついたごまかした事を強く指弾されるという事に気がつかない愚かさがあります。ごまかした事自身が強く非難される。元々の実行為よりも、嘘をついた事、ごまかした事を非難され、抜き差しならぬ事態になるって事は良くある事でありまして、これは、例えばアメリカで、某大統領がウォーターゲート事件で追われた。その国民世論がそこまで盛り上がったのも、嘘をついたという事、大統領が嘘をついたという事でありました。元々の実行為よりも、嘘をついたことが非常に強くしつらんされる、という事がわからない愚かさは戒めたいと思います。6つ目は会社本位でやった事、というふうに自覚しがちですが、まあ、お集まりの方々の会社にはこういう事はないと思いますが、会社とか組織とか、上役というのは必ずしも従業員を最後迄、守り切るものではない。そういうビジネスマンとしての一定の警戒心が必要でないかと思えます。従業員を最後迄守るのかど

うか、こういう事件がありますと、会社は現場が独走したんだ、役員は知らなかった、事件が表面化してから初めて知った、必ずそういう談話を発表します。我々の取材では大概がそういう事でありまして、現場のせいにする。そしてそれを全うする為に、世間体を繕う為に、その者に対して懲戒処分したりする。当然裁判沙汰になっても、その者に対する、その従業員に対する弁護士費用とか裁判に関わる費用など、会社が支援するわけがない、所謂とかげの尻尾切りが行なわれがちなのが今の日本の企業社会である。今の日本の企業社会にはそういう落とし穴が待っている、という事を多くのビジネスマンが知らない愚かさ、があると思えます。

もうひとつは、企業に対する協力姿勢や或いは忠誠心というのは、かつての様な、しっかりしたものではない時代になっているって事を、知らなければいけない。そういう事を知らない愚かさがどこかにあったのではないかと思えます。正社員、最も企業に対する忠誠度の高い正社員ですら、これだけリストラが行われて、仲間が職場から心ならずも去って行くといったような現実を、肌身で感じている事、いつボーナスカットがあるかわからない。賃下げがあるかもしれない。福利厚生施設もどんどん削られてる。ということまの当りにした場合に、そして労働組合も何かしっくりこない、頼りない、言った様な、こういう時代に正社員ですらも企業に対する忠誠心や協力姿勢ってのは、だんだん薄くなっていくという時代ではないかと思えます。そういう時代に今企業はおかれているという事を知らない愚かさ、ましてや派遣の人とか、パートの人とかそういう人が社内に沢山入ってきている最近の経営事情、或いは下請や取引先と厳しいビジネス上の緊張関係にある最近の経営関係からすると、いつもいつも忠誠心を持ち、協力的な姿勢を保っておれる訳ではない。ちょっとした切っ掛けで、外部からも告発されるような事がありうるんだと、そういう緊張感を忘れてる愚かさが何かあるのではないか。昔ならば、そういう企業批判というのもの、負け犬の遠吠えだなどと言って、その、無視したり、負け犬の負け犬が一匹で遠吠えしるんだと言って、それをだまらせたり、押し潰したり、という事が出来たかも知れませんが、今はそういう時代ではない。そのように企業の経営環境は非常に厳しい状況にあり、そしてそこに働く一人一人の従業員にとっても、何かノルマを達成しないと居づらい様な、そういう経営環境にあるって事は

確かですが、あんまり、その企業倫理とか、なんとかとか上等な言葉を出さなくても、良い事と悪い事とどうして区別ができないのとか、人を騙してはいけないよと幼稚園か小学校の頃によく親に諭された、そこんところをきちっと守ってれば防げる様な事が最近の事件に共通して、大なり小なりいろんな事件に共通して今、雪印食品の牛肉偽装事件を主に取り上げてお話ししましたが、何かそんな高邁な事ではなくて、もっと基本的な人格に係わる様な事があの、つまらぬ事態を起こしてしまっているのではないかそんな事を感じまして、実はその当たりから出発し直すのが、企業と倫理の問題を取り上げる際に非常に大事ではないか、という事をひとまず結びにさせて頂いて、私の今回の発言をお終らせて頂きます。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

どうも藤田さんありがとございました。

7つの愚かさを知るというのは、本当におっしゃる様に難しい話しでもなければ、倫理とか道徳とかでは無く、ことごとく必要なことだと。これはこの後で私共議論しようとしております、教育改革の問題、これとまったく共通する事でありまして、難しい話じゃないんでして、何が正しいのか、何が悪いのか、そういう事がちゃんと学校に行く前に家庭で躰なきやならんと。ま、その辺のところとまったく共通するような話だなあと、7つの愚かさを非常に面白く拝聴致しました。そこでまあ、今度は渡辺さんになるんですが、藤川さんからはロータリークラブに於ける職業奉仕とは何か、総論的な事を伺いました。藤田さんからは実際の例をひきながら、問題を起こした愚かさという話を伺いました。で今度は渡辺さんは、ご承知の通り持田製薬の社長さん会長さんでありまして、実際その実業人であって、自分の会社でどういう倫理感を持って経営しておるか、といった事を実際の話を伺いたいと思います。ま、確かにこの高邁な哲学、社是、社訓なんかありますが、実行しているのかと。危ないもんですよ。それを実行することによって、じゃ結果が出たのかと。さっきの「四つのテスト」じゃないけれども、ま、今日はひとつ最終的に、取りあえず第1ラウンドの締めと致しまして、「私の経営哲学」という題にしたんですけど、渡辺さんがどういう考え方で持田製薬を経営しておられるか、その実態をご報告願いたいと思います。お願い致します。

私の経営哲学

持田製薬株式会社 取締役会長

渡辺 進

パネリスト



【ご挨拶】

只今ご紹介いただきました渡辺でございます。ロータリアンとして、今日ここに出席をさせていただきました。前のお二人のお話は、専門家としてのお話でございますが、それに対して、私は、ロータリアンとして、また企業人として実際にどんな実践をしているかということを示せということでございました。これにつきましては、再三にわたり、前川ガバナーにご辞退を申し上げておりましたが、最後には口説き落とされてしまいまして、このような所に出席させていただく結果になってしまったわけでございます。

前のお二人のお話をお聞きしまして、私がこれからお話ししようというものの中かなり重複したものがございますので、一部省かせていただくこともございます。

今日ここにお見えになっておられる皆様方は、職業倫理ということについては、非常にご熱心な方々でございます。私などよりもはるかに優れた方が多いのではないかと思います、非常に恐縮している次第でございます。こちらからはよく見えないのでございますが、会場を見渡しますと、よく見える方が一人いらっしゃいます。それは、佐藤千壽さんでございます。大先輩で、職業奉仕の神様のような方がいらっしゃいますので、そこだけ後光が差しているようでございます。

【最近の企業不祥事の特徴】

最近の企業不祥事につきましては、既に藤田さんからお話がありましたので省かせていただきますが、その特徴を述べさせていただきますと、「キッカケはほぼ100%内部告発」でございます。

藤田さんからお話がありましたように、世の中はどんどん変わっておりまして、いわゆる忠誠心というようなものが無くなってきているということと、インターネットが非常に発達しているということで、直に色々な情報が出されるということがございます。持田製薬でも、企業として、全社員にパソコンを持たせておりますので、インターネットを通じて色々な情報が外にでることは覚悟の上でやっております。企業不祥事のきっかけが内部告発であるということは、おそらく大半の企業の方々も同じような状態にあるのではないかと思います。

次の特徴としては、「社会常識と企業の常識との大きなギャップ」が、最近はっきり出てきていると思います。例えば、内部の人に「これは秘密だから、ちょっとお前わかっているな」などと言ったりすることは問題があります。そういうことは絶対にできない・してはならないとお考えいただかなければならないと思います。

さらに、これも前のお話と重複しておりますが、「トップまたはこれに準ずる経営幹部の不適切な判断・言動により問題がより拡大していく」ということが、今日の不祥事の特徴であると考えます。

このような状況に対して、つい最近ですが、日本経団連においては、奥田会長名で、「企業倫理の徹底を求める通知」を出しており、さらに、「会員企業に対して7項目の措置を要請」するという通知も出しております。このような内容の通知は、従前経団連から出されているわけですが、改めてこの時期にまた出したということは、最近あまりにも問題がどんどん増えてきているためであると思います。その通知の中の4番目に書かれてあります「企業倫理ヘルプラインの整備」ということと、7番目の「不祥事が起こった場合の適時的確な情報開示、原因の究明、再発防止策の実施、ならびにトップ自らを含めて関係者への厳正な処分」を要請していることが、今回の新規要請事項でございます。

【企業の成長とコンプライアンス】

この「経済と倫理の模式図」は私が勝手に作った図でございますが、少し振り返って戦後から現在までの状態

を考えてみますと、とにかく戦後はがむしゃらに働き、日本経済を発展させるための努力は大変なものだったと思います。そのいわゆる反動と申しますか、倫理観が非常に欠けていたのが、40年頃までの状態であったと思います。その後、次第に外国からの圧力等がありまして、日本社会が倫理面を重視する状態となって来ました。今日では、倫理・職業倫理という問題を無視しては行かれないという状態となっております。

コンプライアンスというのは、いわゆる遵法精神でございます。コンプライアンス違反は最大の経営リスクになるということ、よくお知りいただくことが大事だと思いますし、私共も重々それを考えております。このパネルにありますように、急激な時代の変化により「グローバル化の進展」、「社会の価値観の変化」、「企業への社会からの期待感の増大」などが進んでいます。そのため、「企業の常識は、社会の非常識」ということにならないように注意しながら経営をしていかなければならないと思っております。

コンプライアンスの違反例の主だったものを申し上げますと、贈収賄あるいは虚偽表示、事故・クレームの隠蔽等、先程お話がありましたような問題がクローズアップされてきております。その他の問題というのも、これまでも散々問題にされてきていますし、皆様方も絶対にそんなことはなさらないというようなものでございます。

【企業の責任】

企業の責任というものを、このピラミッドのような図で考えてみました。なんと申しても、経済的責任というもの、これは企業である限り責任を持っていかなければなりません。しかし、時代の変化とともに経済的責任に上乘せられる問題として、コンプライアンスという問題を本当に重視していかなければならないと思います。コンプライアンスを重視することにより、経営は成り立っていくものであると思います。この点については、今後も絶対にその認識を疎かにしてはいけません。その上にとって、ロータリアンとしては、社会奉仕あるいは国際奉仕ということをきちっと行っていくことが、ピラミッドの一番上の社会貢献責任ということになると私は思っています。

【製薬業界】

次に、製薬業界のことに触れさせていただきます。製薬業界は、人の生命・健康に直接関与するものですから、

これに対しては最も厳しい規制が存在します。その規制をきちんとクリアーしていかなければならないというのが、われわれの業界でございます。

パネルに食品と薬について1から6までお示ししましたが、真ん中に線が引いてあり、下半分の4・5・6は医薬品・医薬部外品で、薬事法で非常に厳しく色々とチェックされ、一定の効能・効果があるとデータにより裏打ちされているものでございます。上半分の1・2・3は食品です。

最近、新聞等にいわゆる健康食品の広告が多く掲載されておりますが、健康食品や一般食品は薬事法の対象ではなく、食品衛生法上の対象となります。しかし、一般の消費者の方には、その区分けができていないのが現状であると私は思っております。

薬の中でも、当社が製造・販売しております薬は、医療用医薬品でございます。これが売上の85%以上を占めております。医療用医薬品は、英語では「Ethical Drug」といわれております。つまり倫理性を持った商品であるという誇りと責任を持って製造・販売されるべきものでなければなりません。一例としては、少数の患者さんのいる薬というのは勝手に製造中止はできません。少数の患者さん向けの薬は「オーファンドラッグ／みなしごの薬」と呼ばれ、これは製薬会社の責任で製造・販売し、「儲からないから止めた」というわけにはいかない任務を持ったものがあるということもご存じ置きたいと思っております。

【医薬品の開発・規制】

新薬の開発とは、どのような手続きを踏んで行っているかについて、少しお話しします。新薬開発は、新しい物質を一つ見つけてから、製品として市場に出すまでに約10年から18年かかっています。その間に要する費用は、150億から200億円が必要となります。その期間にどれだけのことをやっていかなければならないかという、このパネルにありますように、研究の段階では新規物質の創製から動物での非臨床試験まで行い、開発の段階では臨床試験を行います。その後、製造をするためには製造承認をきちんと取得し、さらに、販売するためには、厚生労働省で薬価収載されることが必要です。これらを全てクリアーして初めて市場で売れる製品となるのです。

医療用医薬品に関する規制をここにお示ししますと、研究にはG L Pという基準が設けられていますし、開発

にはGCPというものがあります。製造にはGMPがあり、さらに製品が販売された後にも市販後調査というものがあります。これはGPMS Pというもので、医薬品を売り出してからもこのような調査を行い、重大な副作用などの問題が起こった場合には、製造を中止する、全面回収するなどの判断基準となり、製薬会社はそれを実行する使命を持っております。

【持田製薬のコンプライアンス対応】

持田製薬のことに触れさせていただきます。持田製薬の社是は、パネルにありますように「絶えず先見の特色ある製品を開発し、医療の世界に積極的に参加し、もって人類の健康・福祉に貢献する」というものでございます。

この社是に沿って平成10年12月に、持田製薬行動憲章という形で、企業倫理に対する方向性をはっきりと示したわけでございます。これは同業の中でも比較的早く体制を整えたということで注目されておりました。ちょうど、私が社長をしておりましたが、社長自らがこの憲章を遵守することを誓約しておりますし、全社員に対して継続的啓発活動を推進するという事も示しております。

当社のコンプライアンスに対する組織の概要をお話しますと、まず、倫理委員会というものがあまして、「高い倫理観とコンプライアンス経営を謳った行動憲章の精神の具現化を図るため、社内のチェックと啓発活動を行う」ということで運営しております。そのメンバーは、社長が委員長となり、委員として、外部の弁護士、大学教授（この方は医学・薬学の方ではございません）、それと、私共の専務と、顧問として私が参加するという体制をとっております。

その倫理委員会の下に、倫理実務委員会があり、ヒト組織・遺伝子利用研究倫理委員会というものがあります。

実務委員会というのは各部門の活動状況の把握や社内教育の指揮等を行うところです。ヒト組織・遺伝子利用研究倫理委員は、最近ゲノムの問題・遺伝子の問題が多く取りあげられていますことから、これに関する研究活動を適正に行うための審査を行っており、社内委員よりも社外委員の数を多くした組織としております。

その他にも各種のコンプライアンス関連委員会や、コンプライアンス担当の部門、例えば公正取引推進室等において専門に検討していくというように、種々の組織により対応しております。

当社の平成14年度の倫理研修概要をご説明しますと、まず各部門で実施する研修としては、全社員を対象に年2回・2時間以上の研修を行っています。MRと呼ばれる営業活動をする人に対しては、年10時間以上の倫理関連研修を実施しております。その他、パネルにありますように全社員に対する社長ビデオ視聴、管理者研修等を実施しております。

当社では、内部告発の問題に対する対応として、平成10年から内部通報制度を設けており、これは持田製薬行動憲章の中に、自主的な是正措置として定義づけられております。「通報の事実および内容については、厳に秘密として管理する」、「通報者に対する不利益が生じないよう手だてを講じる」こと等を行っております。

部門内で問題の解決が困難な場合は、企業倫理担当専務がおりますのでそこに通報するか、法務部長に通報するか、あるいは外部の契約した弁護士のところへも通報できる体制を造っており、相談は、手紙・電話・E-mail等を使って行うようになっております。

これまで内部通報制度を実施してきて、6件の相談・報告がありました。これ等は問題となって外部に出る前に、それに対する改善措置を実施しております。よく問題となりますのは、従来から慣行としてやっているからということがあるのですが、こういうことが一番怖いことなので、そのような点を重視して監督していくことが必要です。

【透明性のある経営】

透明性のある経営ということで、私は、内部告発等の問題の起こる前に、企業の中の情報で開示できるものは徹底的に開示するよう指示をしまして、適時均等開示、タイムリー・ディスクロージャーを重視してやっております。これを徹底して行うことにより、経営管理面だけでなく、倫理・コンプライアンスにおいても良い影響が得られるものと考えております。

一つ事例をお話しますと、2年前に当社の王子事業所の跡地の約2分の1をマンション会社に売却いたしました。そこで調査を行い、地下20m程掘ったところでトリクロロエチレンという発ガン物質が非常に大量に出たということがございました。それに対して、当社では売却した土地を買い戻して、実態を調査したということがございました。これらの汚染状況等の内容については、当社のホームページで全て分かるように開示しておりま

す。関心がございましたら、ホームページ (<http://www.mochida.co.jp/>) をご覧になっていただければと思います。

【コンプライアンスを徹底するために】

コンプライアンスの問題、職業倫理の問題ということは、絶対にこの人なら安全だなどということはありません。誰でもが法令違反を犯す可能性があるという様にお考えいただかなくてはなりません。特に、有能な従業員は、会社の為という様な気持ちで法令違反を犯すということが起こりえます。それによって問題が拡大していきことがありますので、そういう点で充分気を付けなければなりません。また、余所の会社がやっているからとか、今までやってきたから大丈夫ではないかという認識は止めた方がよいと思っております。

私共は、厚生労働省管轄の業種でございますが、行政が法解釈を変更するという事もございますが、そういうことに対しても絶えずチェックを行い、適切に対応してゆくことが大切だと思っております。

倫理の意識を高めて、コンプライアンスを徹底するためには、「経営トップが十分に理解し、自分の言葉で社員に認識させる」、「コンプライアンス体制・マニュアルを整備し、周知徹底を図る」、「継続的・反復的に研修を行う」ことが必要だと思います。

このようなことをしっかりと実行し、さらに、ロータリーの4つのテストをきちんと確認しながら実行していけば、問題は全て解決するのではないかと、私は考えており、今後ともそのような体制を造って行きたいと思っております。

【補足】

薬に対する宣伝になってしまうかも知れませんが、消費者の方々は、健康食品に対して自己責任を持って判断していただくことが必要と思っております。先程お見せしましたパネルにありました様に、食品衛生法で認可されているものと、薬事法で承認されているものには違いがあるのですが、それを一般にはなかなか理解できないわけです。パネルの上半分の1から3が食品衛生法関連で、下半分の4から6が薬事法関連のものです。

最近の広告のありかたについて、私は非常に不満に感じております。健康食品が医薬品然とした広告をしているという状態があり、実際によく調べてみると、それは医薬品ではないということになります。また、お医者さ

んの名を使って、ある物質を使って「よく効いた」とか、「それによって患者が非常に減った」等ということをして、それとドッキングさせている宣伝の仕方が見受けられます。そのために一般の方は迷ってしまうのです。

皆さんがお医者さんにかかっているならば、「それは薬ですか」、「どのように効きますか」ということをお医者さんに聞く権利があり、また、話を聞くことは患者さんの義務でもあるともいえます。しかしながら、薬局で売られているものや、あるいは最近私が非常に困ったと思っている輸入代行業者を使って日本に入ってくる薬や薬らしきものと、そのような宣伝がドッキングしているものがございます。そのようなものが医薬品の領域を犯しているわけでございます。

どこで区別をするかということについては、ご自分でそれを確認していただく必要があります。その様にさせていただくかどうか、皆様方の健康にしっかり寄与するか、あるいは、やせ薬などといって使用していたところ訳の分からない病気になるってしまったということの分岐点となります。その判断は自己責任でやっていただくしかありません。私は、厚生労働省の方によく注意をするのですが、厚生労働省は明確な対処を回避してしまいます。

まがい物を掴まされないようにするには、それぞれの方が、ご自分で確認していただくことが一番大事ではないかと思っております。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

渡辺さんありがとうございました。

最初に話がありました様に、この頃はへたな事をして、まあ輸入の肉と国内の肉とを間違っただけならまだいいんですけど、へたな事をしたら会社潰れる世の中ですからねえ。しかも渡辺さんの場合は、持田製薬の経営者でありまして同時に日本製薬団体連合会の副会長であり同時に日本製薬工業協会の会長であるという。つまりお薬ですからね、もし間違ったらえらい事になっちゃう。従って、徹底してですね、コンプライアンスの問題とか企業倫理の問題とかをやっておられるその実態を、報告して頂きたかった訳であります。事実、相当慎重にやっておられるし、特に、まコンプライアンスの徹底でな事を言っておられる。それがやっぱり4つのテストに通じる、職業奉仕に通じる職業倫理であると。やっぱり私はロータリークラブとして一番大事な事はですね、本当にもういっぺんその我々企業人として、ま、藤川さんは別ですけどね、我々企業人として儲けるのはいいんだけど、やっぱりもういっぺんその倫理をしっかりとやらん事にはですねえ、どっこい会社が潰れる様な時じゃないかなあ。確かに私はロータリークラブの存在価値があると、四つのテスト徹底しなきゃいかんあと、改めて感じたところがございます。それではだいたい極めて順調に予定通りの時間にピタリと止まりましてですね、後これから5分ずつ、お三人からお話をもういっぺん伺いまして、補足説明等ございましたらそこで伺いまして、それが終りましてから20分間質疑応答したいと思っております。それでは藤川さんおそれ入りますが5分間。どうぞ

パネリスト R1第2800地区バスターガバナー 藤川 享胤

今、前川ガバナーがちらっとお坊さんは良いですよって言いましたが、私は決してそう思っておりません。このままいくなら21世紀にお寺の存在価値はなくなると思っております。それだけの努力が我々ができるかどうか、大変な大きな考え方だと思っております。実はごそほうえんというお方がおられて、これが弟子の仏家にこういう言葉を残しました。「福ぶけつくすべからず、福うけつくさば縁かならず狐ならん」。福は幸福の福であります。福をうけつくして下さるな、福をうけつくしたら縁かならず（ご縁の縁であります）、狐ならん、孤独という意味であります。つまり、あんた一人が地位でも名誉でも財産でも取り過ぎたら、取った後で一人になる事を覚悟せよとこう言ったのでありますので、ご承知の様に福という字は左方は計るという意味であります。右は一を書いて口を書いて、田圃の田を書きますが、一口食べる田圃持てる事に感謝ができたなら、あんたに福がきますよという思いを込めて作られた字だそうでございます。皆そう思う訳であります。一口食べる田圃を持ちたい、持つとすれば二口が欲しくなります。三口、十口、百口、千口、この人間の限りない欲望を、仏教の世界ではノーとトップダウンには否定を致しません。ただ、それをするとどっかに無理があるから、取った後で一人になる事を覚悟してくださいねと、戒めるのであります。それに対して孔子はこう言いました。「徳孤ならず必ず隣あり」。つまり徳で人様に接すれば孤、孤独になりません。使えば使う程あなたのまわりにつき隣、隣に人が寄って来ますよ。先程私がお話申し上げました、ロータリークラブの世界では、自分の生業によって利益を得る事を勿論否定致しません。しかしながら見境ない利益の追求、つまり会社の為になるなら、会社が儲かる為なら、何をしてもOKを戒めるのであります。何故ならそれは目先の利益は取れるかもしれないがあなたの職業を永続的にあなたの子供、あなたの孫にさせようとするなら、それは決して長続きはしませんよと。それがロータリーの精神だからであります。さすればこの目先の利益の追求を

止める力は何でありましょうか。それを私は、徳の力におきたいと思うのであります。Sow the seeds of love「慈愛の種を播きましょう」という、今度そのテーマを与えてくださったビチャイ・ラタクル会長は、前川ガバナーがおっしゃる様にその徳の集りようの人であります。我々のそのスペシャルリーダーを、いいお手本として我々ロータリアンは、我々経営のトップにいる人はその徳の力を経営の力にしっかり裏付ける必要があろうかと思うのであります。Sow the seeds of love「慈愛の種を播きましょう」と訳されましたが、それは、そのまま私は、徳の力をクラブにそして、職場に、そして世界の人々に播かなければならないのではなからうかと、このように思っております。ありがとうございました。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

ありがとうございました。

それでは藤川さん恐れ入ります。

パネリスト NHK解説委員 藤田 太寅

あの今の藤川さんのお話伺って、経済の世界でも共通するものがあると思えました。福とはどういうものであるとか、徳を求める事がどういうことなのか、見境無しの利益追求はどういう事をもたらすか、と言うお話がありました。我々は消費者利益の為にとか言って競争が行われ、そして安い物が消費者の手元に入れば、安いサービスが消費者の手元に入れば、それは合理である、といった様な考え方を持っています。これは人倫の限界というものを知った人類が、やっぱりマーケットメカニズム以外に、それよりもっと望ましいものはないんじゃないか、というような事から辿りついてきた事なんです、そういう会社であればある程、我々は安さの背景に、安さを実現する為に何か失っている物はないか、といった様な感覚が必要ではないかと思えます。この安さを実現する為に環境を壊してないかとか、有害な薬物を使っていないかとか、或いは特定の勤労者の安すぎる労働に依存しすぎではないだろうか、といったような、何かそういう感覚がないと、安ければ全てそれで問題解決といった様なことになりがちであります。今環境経済の分野では、持続可能な成長というスローガンがだいたい国

際的な共通理解になっております。

一時期はゼロ成長にしないと環境問題は解決しないではないかなどと言われたんですが、今ゼロ成長というよりも、持続可能なサステイナブルグロウスという、そういう言葉を使っております。これは次の世代の方々が、その所得向上の機会を失わせる様な現代社会であってはならない、現代社会の成長はそういうものでなければならぬ、という意味のようであります。やはり、見境のない利益追求というのは、色々な面で地球社会を破壊してしまう、という戒めではないかと思えます。渡辺さんの話を伺って感心したのは、ヘルプラインについて第1点であります。10月15日に日本経済連が発表したヘルプライン、つまり内部告発制度、すでに持田さんではもう設けていらっしゃる、いうことあります。内部告発制度、しかもそれはちょっとサササと画面が流れてしまいましたが、電話や手紙、Eメールでも良いこういう所が大事なんです。内部告発をした、それは良いけれど、会社に居ずらくなったというんでは、内部告発出てこないであります。でやっぱりこういう気の使い方、出来れば会社の人を除外した内部告発受け止め組織というのがあった方が良く思うんですが、やはりそういう非常に細かい気を使ったやり方が必要であるということ。これはセクシャルハラスメントを防止する仕組としても、同じ様な注意深さがあるんでありまして、セクシャルハラスメントを訴えた、訴えた事で、あの人がその当事者かっていう白い目で見られるっていう、2つ目のハラスメントを受けるっていう事になりがちである、というのと非常に似てありまして、不利益が及ばない様にする、ということが非常に大事であります。そしてその様に細かい気配をしたヘルプラインがありますれば、これはその内部告発がぐんぐん、どんどん来るぞという仕組としてよりも、それよりもむしろ、企業経営を緊張状態におくという効果の方がよほど大きいかと思えます。企業経営を緊張状態におく、その点で言いますと、たとえば大阪で最近、話題になりました、USJユニバーサル・スタジオ・ジャパンの事があります。初年度、初めの1年間で800万人の入場者を予定していたところ、1,000万人も来た。で関西2府4県のいきなりGDPを0.4%引き上げる効果があったと、これ民間の調査機関の研究ですが、関西全体の経済がマイナス成長している時に、ユニバーサル・スタジオだけで、いきなりGDPを0.4%を持ち上げた

と、これはすごい効果だったんです。これはすごいという評価だったんですが、その内だんだん色んな事が露見してきました。あの園内で使われている食品の中に、賞味期限切れの食材を使っていたのがばれてきてしまった。それから水飲み機、上水道じゃなくて工業用水が繋がっていて、沢山の人がそれを飲んでいたとか、或いは、中でアトラクションの為に使う花火、大阪府警に届け出たものよりはるかに多くの火薬を使っていた、火薬取締法違反といった様な事が次々に現れてきて、あれはなんだったんだろうかということになり、USJの社長は辞任のやむなきに至っています。これには私は伏線があったと思います。開業以前から我々、テレビや新聞社が取材を申し込みます。いろんな話題がありますから取材を申し込みます。そうすると内部で色々ごそごそやりました。そしてしばしば断られるんです。開業当所から、本社にとって有利になる取材以外マスコミの取材には応じるなど、これがUSJが当初からとっていた方針であります。ですから我々、ちょっと批判的な目で取材を申し込むと断られていたということでもあります。これは外部を遠ざける事に依って社内の緊張をしないですむ体制においてたと、それが後々のいくつかの不祥事に継っているのではないかと思います。それに比べて、この頃電力会社はあまり人気はありませんが、関西電力では美浜一号機はじめとして、電力施設、原子力発電のトラブルをいっぱいおこしてきています。そのたんに四苦八苦してきた。で普通はこういうものを隠したがらってというのが多い例であります。小林昭一郎さんという社長さんの時代に、トラブルの原因になったボルトナット或いは溶接が壊れてしまったとか、そういうトラブルの原因になったものをひとつひとつ集めてきて、現物を、そういう負の遺産を展示する、展示館というのを持っています。研修センターの横にそれを併設していて、新しい従業員が来ると、これが問題で失敗したんだよと、こういう事のないように、例えば暗いなかでボルトナットを取違えた。この真鍮のボルトを本格的に付けちゃったから、後でこういう振動に耐えられなくなって駄目になったんだってような、そのボルトを飾っておくとか、本来はこれを付けるべきだったステンレスのと言ったような、非常に具体的なこの失敗の歴史を残す博物館を作っている。展示館を作ってる。これはマイナスイメージを作る様ですが、実はもうこれ以上失敗を繰り返すまいという

決意の現れとして、非常に前向きな事だと思います。隠すのではなくてむしろ顕にする。という、そういうことで社内をある種の緊張状態におき、戒とするという意味で、ヘルプラインを早くからやってらっしゃる。しかもその時、タイムリーディスクロージャをやるという事を心掛けてらっしゃるとい事は、非常に大事な事ではないかと思ひます。王子事業所のトリクロロエチレンが大量に見つかった、あんな時の裁きなんていうのは普通はなかなか出来ないものだと思いますけど、よくぞなされたかと思ひます。もうひとつは、あの、私先程来、雪印食品等の民間企業の事を少し責め過ぎたかもしれませんが、監督官庁も、どの面さげて監督官庁だと言っているのかというような事を感じる事、頻りにあります。そもそも我が国ではBSEなど発生するはずはないと言っていたのが去年夏であります。そして国内で最初にBSEにかかった牛が見つかったのは9月の事であります。こういう行政をしてて良いのかどうか、いったいどっち向いているのか、消費者の方を向いていないばかりか、生産者にとっても大変困った事態を招いている、この行政のあり方について我々はもっと厳しい目で見えて良いのではないかと思います。そして、その後、食肉擬装事件がおこったのも、国産牛肉を買い上げる制度が杜撰だった為に、心の弱い民間業者を、恰も誘惑するような仕掛けになっている。その中にいくつもの食肉業者がこう呼び込まれていった。穴だらけの国産牛肉買い取り制度、こういうところはやっぱり監督官庁といいながら、責められなければいけない面が相当あるのではないかと思います。例えば、電力会社の事で言いますと、今の東電の事態というのは甚だ深刻でありまして、東京電力は今原子力発電所17基持っていますが、今の状態を心配なくする為に検査をしっかりとすると、この4月時点では17基中13基を止めなければいけない、いったいような事になりそうだと、というふうに関心されています。現に停止しているのが9基で、電力の需用期というのはあの夏のクーラーを使う時期がピークであると言われていたのは昔の事でありまして、今はふた瘤ラクダなっております。エアコンを使うという同じ意味で、2月にもうひとつのピークがやってきます。この2月の前にして、いったい供給責任が果たせるかどうかということから、久里浜とそれから品川と富津の火力発電所をもう一度使う、今迄休ませていたのを使うか、或いは将来動かそうとしてい

た運転開始を早めるかというふうにしなればいけない。そんな非常事態になっているという事で、大変な事になっております。ま、そういう事の前に、融通といいまして、玉突き状に関西電力から中部電力に中部電力からサイクル変換して東京電力の管内にもってくと、そういう玉突き応援体制を組んだ。それでも足りない時には、2月の電力需用ピークの為にそういう非事事態を考えなければいけないという事で止まっていた、電力発電所久里浜の石油火力を動かす。石油火力というのはあの石油ショック以降、あんまり使うまいといていたそういう発電所ですが、使わなければいけないという様な事態を招いているんですが、こういう事態になった背景にですね、監督官庁のちょっと罪作りの事があったのを、少し私の取材の限りで申し上げますと、かなり昔の事ですが、まだバブルの終りの頃であります。

ささいなトラブルで、安全には関係ないという事からまあ、報告する必要はないかなあと思ったんですが、当局にトラブルとして、事故ではなくてトラブルとして報告した。そして当時の通産省資源エネルギー庁に、なにかこう東電側としては何か意地悪されている様な感じで、二年も運転を止め続けざるをえなかった。バブル絶頂期ですから大変電力需用がある。その時に1基止め続けなければいけなかったとかいうそういう様な事があって、それでそのささいな事だったら報告するのやめようよ、みたいな現場の雰囲気があったという事をちらっと耳に致しました。この事、自体誉められた事ではないんですが、何か2年も止める書類をそのまま置とかれっぱなしになった、そういう事があるって事はどういう事なのか、いう事があります。今回の一連の事故の中でシラウドのひび割れが問題になりましたが、シラウドというのは女性のスカートの中のペチコートみたいなものですね。原子炉の中で水がこうワァーとお湯になって沸騰してきます。その流れを整える為に落下傘のようにして、こう兜のようにしてかぶせるものでそこに入ったひび割れがそこにひび割れがあったとしても外に放射線が漏れる訳ではないという意味で、決定的なものではないって言うんですが、こういうような事も隠したというのも、何かその原子力行政に金縛りにあっている状態の電力会社が、ちょっとこれはよしておこうよというような気分させていた、という事があります。これは、良い事ではないと思います。我々はそういう説明があった

時に、たいした事がないんだっつらなぞ隠すんだというふうに、電力会社側を追求する。電力会社側は事故じゃないんだから、どうしてそんなに大きく取り上げるですかみたいな事を言いますが、だったらオープンにしないよ、いう事を言いたんですけど、でもそういう様な事を隠したがら、或いは隠させる様な行政があるんじゃないか、しかも安全保安庁というのがあります。本当は検査能力がどれだけあるかわかったものではないというのが、あちこちの専門家の話であります。どうも行政側がきちっとした対応していないで、何かその民間側を追い込んでる様な、監督官庁の動きがあるんじゃないか、そんなことも考えまして監督官庁もどの面下げて監督面しているのかというような面も、我々は見落としてはならないと思うのであります。ちょっと長くなりました、失礼しました。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

ありがとうございました。

NHKの解説委員らしい話を面白く伺いました。最後に渡辺さん、5分間言い残された事、お願い致します。

パネリスト 持田製薬株式会社 取締役会長 渡辺 進

私の方から、あんまりごさいませんけれども、あの、まちょっとこれは薬に対する宣伝になってしまうかもしれませんが、やはり消費者の方々、薬或は健康食品と言う物に対して自己責任を持ってそれを判断してもらおう、という事をやって頂きたいというふうに思うんですが、先程、ちょっと掲げました、11のところのものが出ておりますればちょっとあれですけれども、食品衛生法でもってですね、認可されているものとの、薬事法でもって承認されているものというものの違いがあるわけでごさいますけれども、そういうものが一般にはなかなか理解出来ない訳ですね。ここに書いてありますが、点線でもって上の方が食品衛生法でもっての許認可でございまして下の方が薬事法です。この最近のちょっとそのこれはマスコミの方々が隣にいらっしゃるんで具合悪いんですけれども、最近のですね広告の在り方っていうものに対して、非常に私は不満に感じているんですが、健康食品のものがですね、非常に何か、もう医薬品然とした広

告をしていると言うそういう状態があります。で実際は良く調べれば医薬品では無いという事で、ただ、その、これ又お医者さんの悪口になるかもしれませんがお医者さんがですね、特殊なお医者さんがそのある物を非常にこれを使ったら良く利いたとか、或いは患者が非常に減ったとか、そういうような事を出して、それを何か丁度、ドッキングさせる様な宣伝の仕方というのがある訳なんです。これでもって非常に一般の方々、間違えてしまうんですが、これはですからその皆様方がお医者さんの所へ掛っていればですね、これはお薬ですか、どういう風に利きますかという事をちゃんと聞いてやる事が権利なんです。権利であり義務であると言う事で、そういう風にしてやり取りをするという事をやって行けるんですが、只、薬局で売られたり、或いは最近、私は非常に困ってるなど思うのは、輸入代行業者を使ってですね入ってくる薬らしき物、こういう物にそういう様な宣伝が丁度ドッキングしているというものがある訳です。そう言えばもう正しく我々の領域を侵しているという訳でございます。ですからそれはどこでもって分けをするかという様な事は、これはご自分でそれを確認するという事の必要がある訳です。そういう事をやって頂く事が皆様方の健康にちゃんと寄与するか或いはまた変な痩せ薬だとか言ってですね、使っていたらそれが大きな病気になってしまったという様な事がある。その辺の所はやっぱり、自己責任でもってやっていくより他無いんです。これは私は厚労省なんかに良く注意をするんですが、厚労省はやはりあんまり今のお話じゃありませんけれども、まあ、それはしょうがないんですよという様な事を言ってそれで回避してしまうんですね。そういう事が無い様な状態にするにはやはり、それぞれの方がそれを認識して行くという事をやっていくという事が、一番大事じゃないかという風に思っている訳でございます。ま、この辺位のものでですねちょっと私が申し上げたいのは。

コーディネーター・ガバナー 前川 昭一

ありがとうございました。

大分お疲れさんだとおもうんですけども、これで予定だとあと20分間質疑応答なんですけど煩わしいからもうやめとけというならやめますし、あのもし質問がございましたら20分間取ってございます。まあ、あの藤川さんはお坊さんではありますけれどロータリアンの我々の先生でございますし、あのちょっと先程申し上げましたけれども、曹洞禅ですね。禅宗の曹洞宗、曹洞禅インターナショナルの会長でもあるんですね。禅の難しい事を世界的に英語でもって良く納得させるというそういう方でもある。藤川さんは東大文学部をお出になられてからずっとNHKに入られて、通産省、大蔵省、経済企画庁、日銀、経団連、とそういう所をずっとこうあの記者でありまして、そういったその経済、財政、金融の裏も表も良く知っておられる方ですし、渡辺さんは実際の経営者の方ですから、何か、ご質問がありましたらあと15分程でございますから。どうぞ

質疑応答

松崎 ロータリーの原点、職業奉仕の意義と使命という事を書いたんですが私の考え方はですねロータリーから職業奉仕が無くなった時はロータリーは終焉するであろうという風に私は思っております。ただのそれは慈善団体になるんだらうと例にロータリーとネーミングしてもネーミングを続けてもその時はもうロータリーじゃないという風に私はそう言う信念でございます。ところであの職業と言う言葉ですけれども、これはロータリーではですねあのポケーションという風に呼ばれておりますね。ポケーションと言うのは牧歌地方とかボイスとかコーリングとか高い定義付けをしている訳でございます。これは要するに定職だって言う事なんですね。ところが翻って現実を考えて見た場合に我々は職業を得るのに大変、あの子供の時から勉強に勤しみ修行しやと生涯生活の糧を得るための手段としての職業を取得する訳ですね。従いまして、これ、天職と言われると非常に高い位置付けの職業なんで、その事に従事する事に大変、なんて言いますか大変だなあと言う思いなんですけどそんな中に職業と言っても色々ございまして例えばパブリックサーバンとはこれは公益その物に従事する職業ですからそれはそれで良いんですがその他にプロフェッショナルと呼ばれる職業がございましてね。ご存知の様にこれは一般的に医者とか弁護士とかそこにおられる立派なご僧侶が従事する職業なんですけど、これはあの要するに人の不幸に関わる携わる職業なんですよ。従いまして利潤などを考えちゃいけないと言う職業です。私も弁護士なんですけど弁護士は弁護士法という法律がありまして、社会正義の実現と基本的人権の擁護にもっぱら携わりなさいという事でございますから利益行為に携わっちゃいけませんと利益行為に携わっちゃいけません、利益を上げちゃいけませんという風に規定されてます。これ以外はですね、資本主義社会に於いては利益を上げることは放任されている訳ですよ。今や資本主義や爛熟した今日に於いてはですね、分業それから商品交換の社会でございますからそれを社会主義を守りながらやって行く為には慈愛

じゃありませんけど人愛が必要だと言われて訳でありますよ。人愛ってものが必要なんだと言う風に言われてる訳ですよ。法律違反なんて論外ですよ。その前の段階の人愛が必要だと人愛に基づいて職業奉仕しなければ、いろんな社会的混乱だとかいろんな問題おこしますよという事だと思うんですよ。従いまして資本主義社会に於ける職業には私は二面性あると思うんですよ。二面性と言うのは勿論、有益性と有害性があると言う事ですよ。有益性と言うのは職業奉仕する事に依って社会一般の人にいろんな利益を供出できると言う事ですよ。ところが職業はあの、利益を上げて良いという事で資本主義社会では放任されてる訳ですから、そちらに走ってしまうという有害性を内包している訳ですよ。これはそういうもんだと私は思っております。従いましてね、まあ時間あまり取っちゃいけませんから、要するに一言で言えば適性利準を上げる限度で職業を行わなければいけないという事が特にロータリアンについては求められていると私は思うんですよ。適性利準というのはなにかと渡辺さんの話を聞いていたら、薬品開発にものすごい巨大な投資が必要なんですよ。聞いてびっくりする程、私もそう思っていましたけど、だから適性利準というのは何かという事なんですけど、これは適性利準というのは時代と共にいろいろ動く標準だと思うですよ。これ一言で言えば社会通念が許す限度での利益なら良いけどそれ以上の事をやると犯罪とは言えませんけれど、まあなると言いますかなあ、資本のみで言えばこれは搾取ですよ。搾取に渡る様な利益を上げちゃいけないという事だと思いますんでやっぱ適性利準の範囲内で職業を営むと、これが奉仕の理想だらうと奉仕の理想の適用する職業奉仕だらうという風に私は思っているんですが私の話は藤川さんお答えを頂きたいと思います。

藤川 松崎さんご自身が答を出しておいでなのに。いろんな質問がございましたので全てお答えするのは不可能な事なので、1つだけ当然としてロータリアンとして自分の生業として多分なる利益の追究と言う事は当然よろしいと言う事を述べさせて頂きました。しかし私はその次に見境のない利益の追究はいかばかりかという話をさせて頂いたのです。それに対して松崎さんさすれば見境のない利益の追究はどこにラインを置くのであろうか、という事に繋がっているのではあろうと思います。時

代の流れもあるでしょう。だからそこを私は考えるのはリーダーのつまり価値観の問題であります。その方がどこにその価値観を置くかによって当然上下があらうかと思えます。しかしその所に厳しいリーダーとしての価値観の厳しさ、そして徳の力を無くした場合にはその価値観を下げてそして利益を得ても一人ぼっちになった時は辛いよね。そうならない様に我々ロータリアンの仲間というのがあるのだと私は思っております。そしていちおしにひとり今は5人という事になっておりますが、その人達の集まりに依ってああ、あの生き方をさして頂くということを共に研鑽するのがロータリーの職業奉仕において大事な事であると、この様に思っております。以上です。

前川 松崎さんどうもありがとうございました。松崎さん私共同期のがパナーで一番うるさい男でしてですね、大演説をぶってくれまして、この次は彼をパネリストにしてもらおうかと、あの結論はおっしゃる通りで安心して下さい。そんな搾取する位大儲けできる世の中じゃないから。今はとんでもない、そんな仕事があったらお教えて欲しい位だ。まあ、弁護士は気楽なもんですよ。それ以外にかかっていますか。ご質問、あと一問、戸田さんどうぞ。

戸田 今お話を伺っていると要するに数字に表現する事のできる世界とそうでない世界の価値観の攻めぎ会いといかに価値観を計量化できるかという部分と計量化出来ない世界があると。たぶんロータリーが関わって深くコミットしなければいけないのは計量化する事の出来ない世界の価値観だと思えますね。あの前川ガバナーがですね、今年度教育問題にコミットされて、まあ、これから実際に対外的に働きかけて行こうとされている訳ですけれども、この計量化できない世界と計量可能な世界とのバランスをどう取りながら具体的にどうやって社会的に働きかけていこうとしておられるのかちょっとお伺いしたい。

前川 それはあの教育問題ですかそれとも職業倫理ですか？

戸田 で教育問題と職業倫理っていうのはまったく切

り離す事の出来ない部分があると思うんですね。で結局、その、教育問題の1分野であるというふうに考えていいかと思う訳ですね。ですから前川さんが今年掲げられている大きな事業計画のひとつに大変深い関係があるという風に私は理解しているのでそういう意味でこのパネルディスカッションを通じて、あの、参加者の我々にですね具体的なもしその働きかけの目的があったらと、いうならば是非ご教授頂きたいと。

前川 大僧正に向って説教なんか出来ませんがねえ。計量化するしないと先程もお話出しましたが、藤田さんもおっしゃった様に偉い倫理であるとかエシックスであるとか難しい話じゃないと、つまり何が悪いんだと何が良いんだとつまり学校に行くならちゃんと行って、行ったらちゃんと話を聞いて来いと、悪いことをするなと、そういう事が一番基本じゃないかと、そこいらをきちっとやらない事には職業倫理も教育も駄目だなあとそういう意味じゃやっぱこう、その、インビリジウムじゃないかなあとそんな感じ致しますけれども。それ以外もう1問どなたかご質問ございましたらどうぞ。お名前を。

橋本 ちふさ中央ロータリークラブの橋本と申します。具体的な話をさせて頂きますと、昨日生保レディ、生命保険のセールスレディが当社に見えました。私はひとつの具体的な例として、昔は生命保険がさんざん貯蓄型を勧めました。私みたいな掛け捨てですと嫌がりました成績にならないと言われてまして、ところがその貯蓄型が今じゃ逆ざやになっちゃいましてですね。それで既に倒産しているような生命保険もある訳ですね。その中において既にもう大分前でしたか、私いつだか忘れましたが新聞会社がそういうものを解約すると、絶対、消費者にとっても不利であるともかかわらずわかった様なわからない様な商品を作ってますね、おばあちゃんおじいちゃんを、これを下取りするからこうしましょう、ああしましょうと言って、結果的にそれは損になるんだと。昨日、それを生保レディに尋ねましたところ、あれはやはり損をしますと、やはりそのまま掛け続けた方が良く。まあ、それで生命保険会社が潰れちゃえばそれ迄の事なんです。潰れない限りは消費者にとっては貯蓄型を今でも継続していった方が得になる訳ですね。そういう所に於いてですね、生命保



険会社の錚錚たる立派な人達が会長とか社長やってる会社ですね、消費者に不利な物を進めていると私はそういう所にね企業倫理っていうのは何なのかという事にいつも腹が立ってるんですね。もっと、だとしたらおばあちゃんこれは逆ざやだから損をするから何とか変えてくれないかという様な事を正直に言った上でお客さんに判をもらってるなら良いんですが、そういう事を曖昧にした中ですね、お客さんに不利な物を結局は進めてつると、まあ、私は水清くして魚住まずとやはり世の中清濁合わせなきゃ生きられない物がいっぱいあると思うんですね。そう簡単に企業倫理、企業倫理と言いましても、具体的には現実なところに照らし合えますと、そこらへんの判断が実に難しい物があると思うんですね。ところが今回の牛肉とか雪印食品もそうですが、直接お客さんとことの消費の家庭の奥さんとつながっている所は、新聞でたたかれるとすぐにたたかれますね。昔の貝割れもそうでしたが。ところがそういう直接商品を扱っている消費者と家庭の奥さんと直接つながっている商品は新聞等そういう物です。最後には会社迄無くなる様な事になりますが、例えば、ひとつの今の話として、生命保険会社は何をやったんだろうと。やはり他の産業においてもみな、大なり小なりそういう部分があると思います。今日我々、私を含め、このロータリアンの中でも、もうせめて上から下迄何ひとつ胸をはれるという様なもので成り立っている職業っていうのは無いと思うんですね。そこら辺の考え方で私は生命保険のあのそうそうたる立派な人がいる会社がお前ら、そういう事やっててなんで狂牛病の事を批判出来るのかと人様の事を言えた柄かと私はいつもそういう事思うんですが、そこらへんの考え方をですね、今日の具体的なお話の中に組み込んで藤田さん何なりに渡辺さんでも良いんですが、ちょっと私

は考え方を説明してもらいたいです。

前川 それでは藤田さんお願い出来ますか。

藤田 はあ、僕は放送局におりまして、それから大学におりまして生命保険会社に勤めておりませんので、わかりにくい点があるかと思いますが、私は、例えば我々の土地信仰っていうのは我々ひとりひとりの心の中から消えてるだろうか、まだ土地は持っているだけでいずれ値上りするだろうか。利殖の対象として土地ほど確実なものはない。自分の持っている土地に地続きの土地が売りに出たら、自分の持っている土地の地続きで売りに出る土地があったら借金してでも買ってみる土地はいずれ値上りするから決して悪い事にはならないといった様な土地信仰とか、89年の12月29日に日経平均株価が39815円、4万円近く迄いった。それからさがってきた、その最中で、まだまだ下がると思っていた人がどれだけいたかいずれ戻るとは思っていた。まだはもう、もうはまだなりの世界であります。皆が相場感を間違えて12年たった今、日経平均株価がバブル崩壊後最安値を今だに更新するんじゃないか、9000円割れを実現して、又、9000円台に戻ったとしたら又、ぎりぎりの所で上下していると、この相場感の違いというのがどっかで間違っていたという点が今の生保の運用不成績の中にはあろうかと思えます。これは生保会社の判断だけが間違っていたのか、国民、皆がバブっていたのか、ちょっと私には判断つきにくい所があります。しかし、もうひとつ今、橋本さんのご指摘の中で、許してならないのは、高齢者に向ってセールスが絶対大丈夫ですよとか、そういう言い方で進めてたって言うかいくつもあります。そしてあなたが言ったから買ったじゃないのいや言ってません、と言った様なそういう遣り取りで何人もの人がいわば騙されてるっていうこれは許してはならないと思えます。そこで私は今、放送でそういうような事を取り上げるときは、次の様な表を掲げています。「気を付けろ、甘い言葉と暗い道」気を付けろ、甘い言葉と暗い道、つまりこれは絶対ですよっていうのはだいたい非常に絶対怪しいと思いなさいとあなただけ申し上げる情報ですがこれは一番信用してはならない。それから暗い道というのは本当かどうか理解が出来ないのに判子を付いちゃいけないっていう事です。自分で納得して判子をつく

だったらそれは失敗したら失敗でいいでしょう。だけど何かあのセールスマン何度も来るもんだから仕様が無くって判子をついちゃったのよ、みたいな事はこれはやってはいけない事、消費者側も防衛すべきであるという風な事を考えております。今の橋本さんのご質問に全て答えてるかどうか分かりませんが貯蓄型の保険商品で逆ざやになった問題又はそれを買わされた今になって損をしてる問題、これにはちょっとひと言では答にくい様ないろんな判断ミスとか或いは流された捺印とかそういう物があつたのではないかと考えております。

前川 ありがとうございます。

今、丁度、時間になりましたのでこの辺で終わらせて頂きたいと思いますが、3人のパネラーの方々、大変ありがとうございました。又最後迄ご協力いただいた皆様ありがとうございました。これで終わります。

藤川 享胤 ふじかわきょういん

生年月日……昭和22年11月2日
 略歴……昭和45年 駒沢大学仏教学部卒
 大本山永平寺安居
 昭和48年～53年 米国サンフランシスコ桑港寺主任開教師
 平成4年より仏教法人般若寺代表役員
 公職……山形県P・T・A連合会元副会長
 鶴岡ユネスコ協会会長
 曹洞禅インターナショナル会長
 日本パートナードック協会理事長
 ロータリー歴…1978年 鶴岡ロータリークラブ入会
 1981～1982年度 クラブ幹事
 1997～1998年度 クラブ会長
 1999～2000年度 RI第2800地区ガバナー
 2002・2003年度 国際協議会研修リーダー
 2002～2004年度 ロータリー財団地域コーディネーター
 2002～2003年度 指導力開発、研修委員会委員
 2002～2003年度 インターアクト委員会委員
 2002～2003年度 識字率向上東アジア小委員会委員

藤田 太寅 ふじたたかのぶ

生年月日 …1938年(昭和13年) 東京都に生まれる。とら年
 肩書き ……NHK解説委員、関西学院大学教授
 略 歴 ……1963年(昭和38年) 東京大学文学部社会学科卒業。放送記者としてNHKに入る。新潟放送局を振り出しに、東京の報道局経済部記者となって大蔵省、通産省、経済企画庁、日銀、経団連などを担当する。次いで大阪放送局でニュース・デスクをつとめた後、東京の報道局に戻り、「NHK特集」などの制作、演出にあたる。
 1990年(平成2年) NHK解説委員に就任。この間総合テレビ「NHKニュースツデー」、「経済マガジン」、「クローズアップ現代」など多くのレギュラー番組のキャスター、コメンテーターをつとめる。
 今年4月からは「くらしと経済」(総合テレビ、毎週土曜日9:15から)のレギュラーコメンテーターをつとめる。
 1999年4月、NHK解説委員をつとめるかたわら、関西学院大学総合政策学部教授に就任。日本経済論、メディア社会論専攻。

渡辺 進 わたなべすすむ

生年月日…大正11年6月7日
 略歴……昭和19年 慶應義塾大学法学部卒業
 昭和24年 持田製薬株式会社入社
 平成2年 持田製薬株式会社代表取締役社長
 平成12年 持田製薬株式会社代表取締役会長
 平成14年 持田製薬株式会社取締役会長
 業界団体役職歴……社団法人東京医薬品工業協会会長
 社団法人東京薬事協会副会長
 日本製薬団体連合会副会長
 日本製薬工業協会会長・企業倫理委員
 ロータリー略歴……1976年11月5日 東京池袋ロータリークラブ入会
 1993～94年度 東京池袋ロータリークラブ会長
 1997～98年度 地区ロータリー財団委員会委員長